

J-REIT:2019年5月の投資部門別売買動向

引き続き国内投資家が買い支え、外国人投資家は買い越しに転じる

2019年6月18日

生保・損保が買い越し、外国人投資家は買い越しに転じる

2019年5月のJ-REITの投資部門別売買動向は、生保・損保が147億円、ETFへの資金流入が大部分を占めると考えられる証券会社の自己売買部門が97億円、外国人投資家が5億円の買い越しとなりました。一方、個人投資家が231億円、銀行が42億円の売り越しとなりました。

各部門とも売買は活況でしたが、売りと買いの金額が均衡したためネット金額では少額にとどまりました。

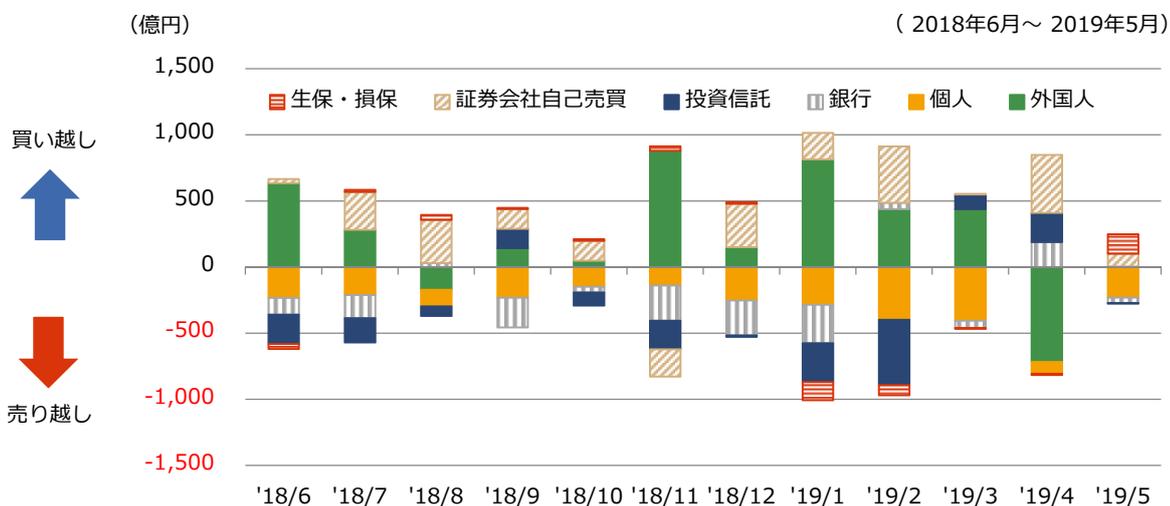
国内投資家が買い支え

外国人投資家は2019年4月にJ-REITを大幅に売り越しましたが、5月は買い越しに転じました。ただし金額は少額であり、J-REITへの投資姿勢が以前より弱まっている可能性が考えられます。

また、生保・損保は過去と比較すると大幅な買い越しとなりました。

5月の東証REIT指数（配当込み）は1.7%上昇し、TOPIX（配当込み）が6.5%下落する中で堅調に推移しました。4月に引き続き、生保・損保など国内投資家がJ-REIT市場を買い支えたことがわかります。

J-REITの主要投資部門別売買動向



※投資部門は上記以外にもあります。

(出所) 東京証券取引所

※TOPIXおよび東証REIT指数に係る知的財産権は、株式会社東京証券取引所(東証)に帰属します。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。